

# 第3章 「輝き あんしん プラチナ社会」の実現に向けた課題の整理

## 1 課題整理の視点

本計画は総合計画が掲げる「輝き あんしん プラチナ社会」の実現を基本目標とします。

そのため、前章までに整理した本県の地域特性や時代の潮流、さらに諸計画等を踏まえ、今後の社会資本整備を進める上で早急に対応が必要な課題について、3つの重点分野毎に整理します。また、各分野共通の事項については、「社会資本整備を効果的に進めるための施策」として整理します。

### 安全安心を支える基盤づくりを進める「防災・減災」分野

多発する自然災害に対し、県民の生命・財産の保護を図るため、自然災害に強い基盤づくり及び緊急時の救援活動を支える基盤づくりに取り組みます。

課題1 地震、噴火、豪雨等の自然災害に強い基盤づくり

課題2 緊急時の救援活動を支える基盤づくり

### 地域資源を生かして活力ある地域づくりを進める「活力」分野

地域資源を生かし、活力ある県土の発展を進めるため、個性豊かな地域づくりや魅力的な観光地づくりに取り組みます。

課題1 産業の競争力強化に向けた基盤づくり

課題2 リニア開業効果の県全域への波及

課題3 「国際観光都市」に向けた滞在型観光地づくり

課題4 市街地の活性化

課題5 豊かな森林資源の利活用

課題6 個性豊かな景観づくり

### 健やか・快適環境を創造する「暮らし」分野

住み慣れた地域で安心して暮らせる社会づくりを進めるため、全ての人にとって生活しやすい環境づくりに取り組みます。

課題1 安全安心な生活環境づくり

課題2 住環境の向上

## 2 「輝き あんしん プラチナ社会」を実現する上での課題

### 安全安心を支える基盤づくりを進める「防災・減災」分野

#### 課題1 地震、噴火、豪雨等の自然災害に強い基盤づくり

本県は、大部分が山地に属し、地形は急峻で、急勾配の河川も多いことから、台風や集中豪雨等によって、県内各地の河川で洪水による甚大な水害が繰り返し発生してきました。また、地質も脆弱で崩れやすいことから、山地崩壊、土石流、地すべり、がけ崩れなどの土砂災害の発生危険地域が数多く存在しています。これまでの治水対策等の取り組みにより、大きな人的被害を引き起こす災害は減っているものの、地球温暖化に伴う気候変動等の影響による集中豪雨の激化や高齢化に伴う地域防災力の低下などにより、今後、甚大な被害が発生する恐れがあります。

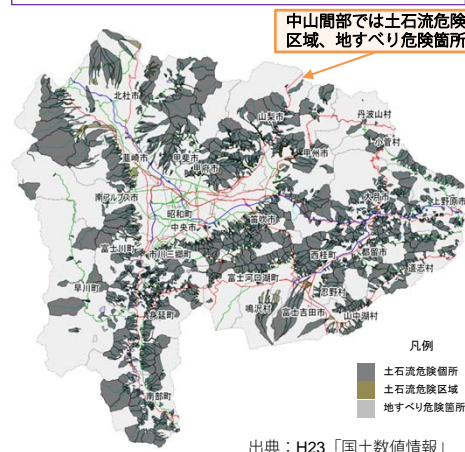
また、切迫する南海トラフ地震や首都直下地震、さらに富士山噴火など、被害や影響が広範囲に及ぶ恐れのある災害の危険性が指摘されています。

そのため、今後も、河川改修や土砂災害防止施設の整備など、災害に強い基盤づくりを着実に実施していく必要があります。

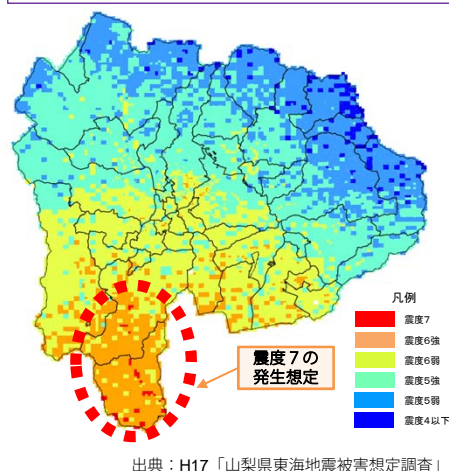
さらに、ハード対策に加えて、人的被害を発生させず、また物的被害も最小限に止める観点から、平常時からハザードマップの活用や防災教育・訓練などを進めるとともに、各種の災害関連情報を迅速に収集・提供し、的確に災害対応ができるよう、防災体制の確立を図ることが必要です。

その他、住宅をはじめ既存の構造物の災害に対する耐久力向上も必要です。特に道路や橋梁、トンネルといったインフラに関連する施設・構造物に関しては、災害発生時の緊急輸送道路としての機能を確保するため、早急かつ確実な耐震化等の推進が求められています。

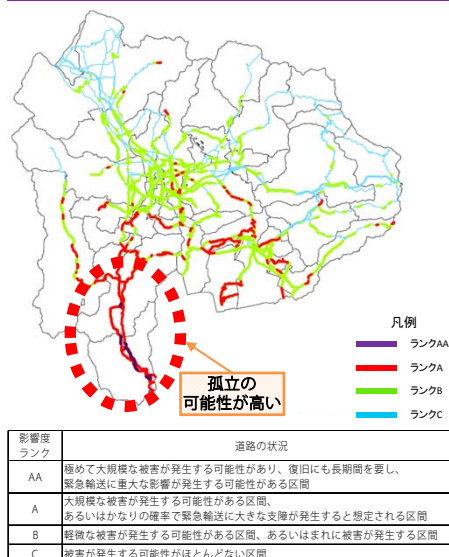
#### 土石流危険箇所及び地すべり危険箇所



#### 東海地震想定震度分布図



#### 交通施設被害道路



## 課題2 緊急時の救援活動を支える基盤づくり

東日本大震災は、国内最大規模の地震と地震後に発生した大津波により、太平洋沿岸を中心とした地域で多くの死者や行方不明者が出る大災害となりました。

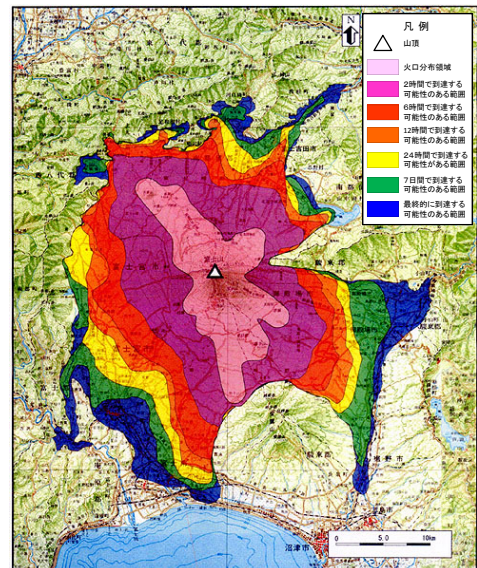
本県においては、切迫する南海トラフ地震や首都直下地震、さらに富士山噴火など広範な地域での災害発生が懸念されています。このような災害の場合、地域住民が被害の及ばない地域まで避難を要する状況も想定されます。このことから、住民の円滑な避難活動をはじめ、その後の応急対策や救援活動を速やかに実施するため、緊急輸送道路をはじめとする道路網の整備により、災害時の交通手段の確保を図る必要があります。

緊急時に避難所となり得る公共施設については、山梨県強靱化計画及び山梨県公共施設等総合管理計画に位置付けて管理者による耐震化を促進していく必要があります。

また、観光客も含めた帰宅困難者に対する対策については、各種協定や情報提供に加え、一時避難場所の確保を検討していく必要があります。

大規模災害においては、自衛隊や他県からの緊急消防援助隊、広域緊急援助隊などによる円滑な救援活動が重要になっており、そうした大規模救援活動部隊の活動や物資の一時貯留を行うための拠点整備も急務となっています。

溶岩流可能性マップ



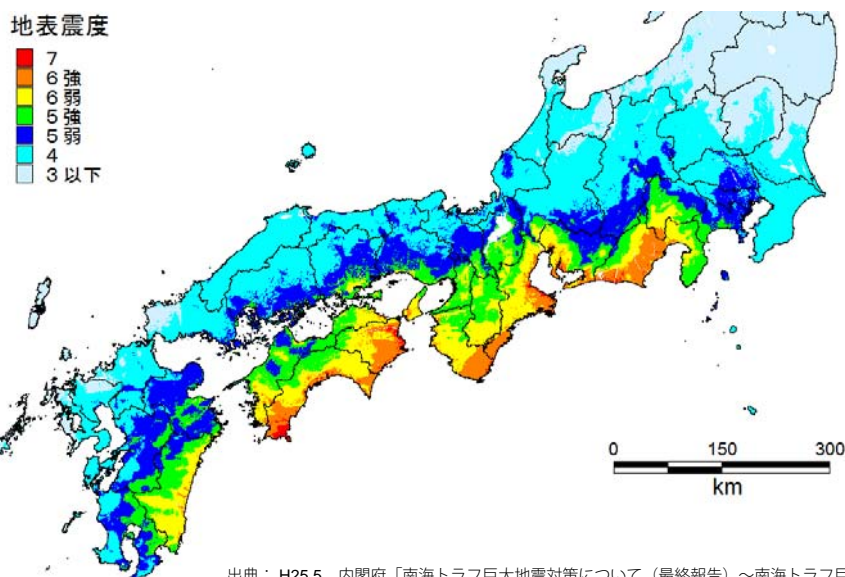
出典：内閣府「富士山ハザードマップ検討委員会報告書」

南海トラフ巨大地震等による山梨県の被害想定

被害想定の内容	被害状況	備考
建物の全壊棟数	5900棟	揺れによる倒壊
死者数	400人	建物倒壊
上水道断水人口	57万人	被災1週間後も断水率32%
停電件数	56万軒	
不通回線数	19万回線	約9割に相当
孤立集落	55集落	

出典：H25.5 内閣府「南海トラフ巨大地震関東ブロック地域対策計画被害想定」

南海トラフ巨大地震による震度の最大値の分布図



出典：H25.5 内閣府「南海トラフ巨大地震対策について（最終報告）～南海トラフ巨大地震の地震像～」

# 地域資源を生かして活力ある地域づくりを進める「活力」分野

## 課題1 産業の競争力強化に向けた基盤づくり

地方創生に向けた取り組みを進めるうえで、他圏域との連携・交流は重要であることから、交通基盤の整備・強化は県の持続的発展のために必要不可欠です。特に、急峻な山地に囲まれた地勢を持つ本県にとって、他圏域と連携するための交通基盤は、生命線であり

ます。しかしながら、例えば中央自動車道の小仏トンネル周辺では週末や観光シーズンには慢性的に渋滞が発生し、本県への観光・物流における大きなボトルネックとなっています。

また県内にも主要渋滞箇所が多数存在し、国道20号をはじめとする甲府市内や富士吉田、都留市内で激しい渋滞が発生しています。特に観光シーズンには、富士吉田市内など観光地の幹線道路で激しい渋滞が発生しており、観光地の魅力向上のためにも、渋滞対策を推進する必要があります。

本県の農業は、東京圏に近い有利な立地条件や変化に富んだ自然条件を生かしながら、農業者のたゆまぬ努力と高度な生産技術の確立などにより、果樹、畜産、野菜、水稻、花きなどの特色ある産物を形成しています。特に、ぶどう、もも、すももは、全国一の生産量を誇り、「果樹王国やまなし」として発展してきました。

今後、担い手の高齢化や減少、グローバル化の進展など農業を取り巻く厳しい環境に対応していくため、農産物の戦略的な販路拡大、農業生産の効率化や高付加価値化、農産物の一層の高品質化などの取り組みを総合的に推進し、儲かる農業へと転換を図っていく必要があります。

また、農業生産活動を将来にわたり維持・発展していくとともに、果樹園が織りなす本県特有の美しい農村景観を守り育てていくためには、それを支える農山村の基盤づくりに取り組む必要があることから、ほ場や農業用水、農道等の基盤整備を進め、耕作放棄地の解消、多様な担い手の確保、鳥獣害防止対策など活気に満ちあふれた農山村づくりを推進する必要があります。

### 高速道路（外環外側）の主要渋滞箇所の候補に対する意見数

順位	主要渋滞箇所	意見数
1位	小仏T.N 中央道（八王子JCT～相模湖東）	654
2位	綾瀬B.S、大和T.N 東名（横浜町田～海老名JCT）	269
3位	鳥山T.N、高井戸、三鷹 中央道（高井戸～調布）	227
4位	所沢、新座T.B、大泉JCT 関越道（大泉JCT～所沢）	214
5位	調布 中央道（調布～稲城）	210
6位	中央道 中央道（上野原～大月）	185
7位	花輪 京葉道（花輪～幕張）	169
8位	元八王子 中央道（八王子～八王子JCT）	167
9位	京葉道 京葉道（船橋～花輪）	161
10位	高坂S.A、鶴ヶ島 関越道（鶴ヶ島～東松山）	156

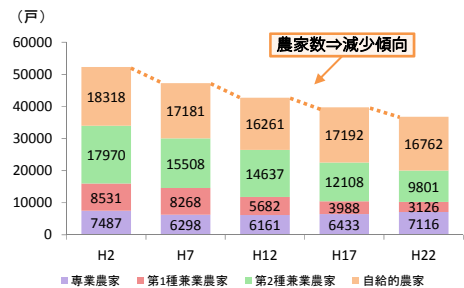
出典：国土交通省「中央道渋滞ボトルネック検討WG 第一回資料」

### 富士吉田市内の渋滞状況



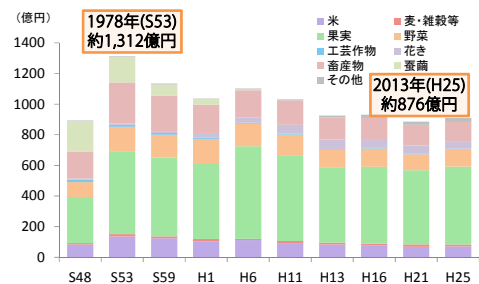
写真提供：県土整備部

### 農家数の推移



出典：「農林業センサス」

### 農業生産額の推移



出典：山梨県統計データバンク「作物統計調査」

## 課題2 リニア開業効果の県全域への波及

本県が持続的に発展していくためには、外国も含めた広域的な地域間で、人、物、資金、知恵、情報等の多様な交流・連携を図り、相互に補い合うことが不可欠です。

本県の周辺では、新東名高速道路や首都圏中央連絡自動車道（圏央道）などの高速道路をはじめ、富士山静岡空港の開港、清水港の拡張など、様々な交通インフラ等の整備が進んでいます。これらと中部横断自動車道などの県内の広域幹線道路網が接続されることによって、県外主要都市や交通拠点までの所要時間が大幅に短縮され、県内の経済産業の発展に大きく貢献することが期待されます。

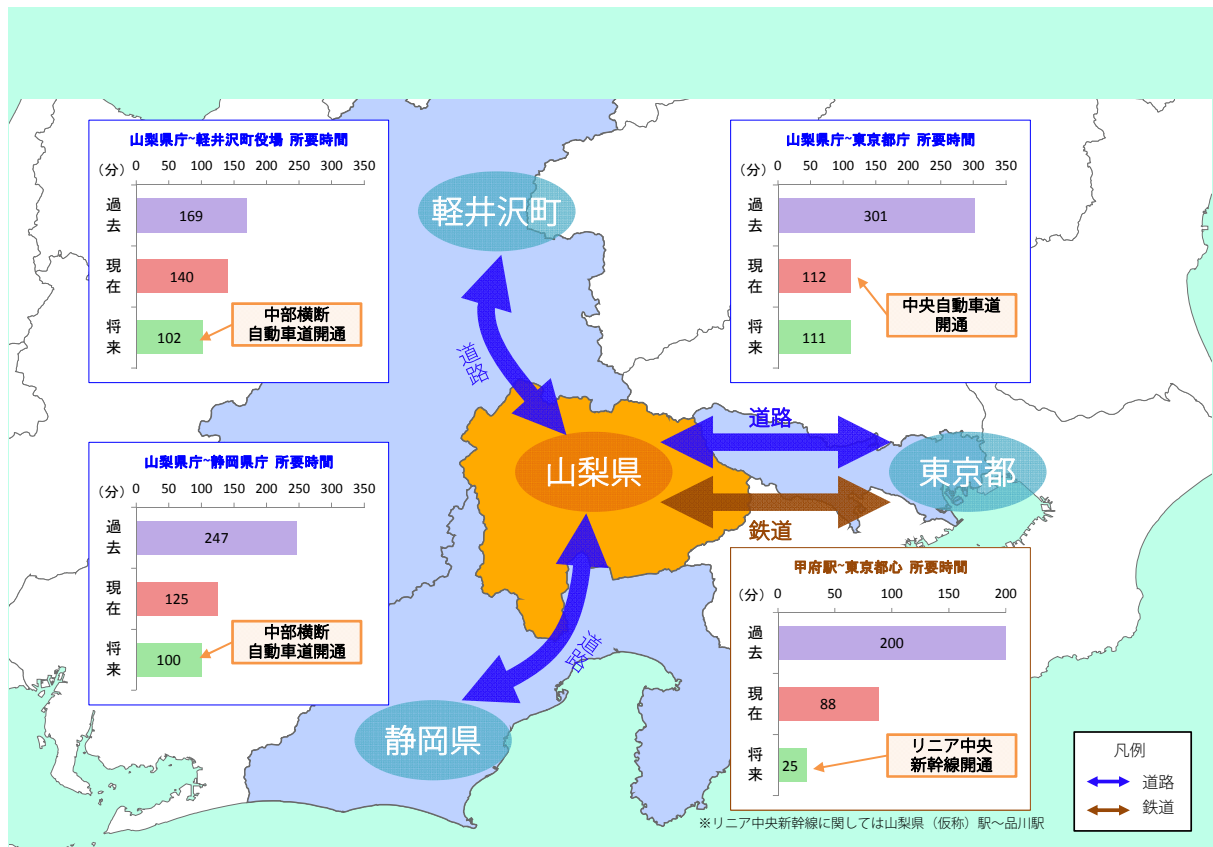
リニア中央新幹線及びJR中央線の高速化など、道路以外の交通手段との有機的な連携も含め、各事業主体と協調しながら、より円滑な広域交通・物流ネットワークを形成していくことが必要になります。

また、リニア中央新幹線の整備に伴い予定される新駅については、周辺地域のまちづくりにも寄与するよう、河川改修等の基盤整備を計画的に推進する必要があります。

リニア中央新幹線



写真提供：リニア交通局



出典：「H22年度 道路交通センサス」  
 山梨県ホームページ「中部横断自動車道パンフレット」  
 山梨県ホームページ「リニア影響基礎調査業務報告書」  
 NEXCO 中日本「中央自動車道の渋滞対策（案）について」

H14 時刻表復刻版 戦後編5「昭和27年時刻表」  
 S26 日本地図「関東及信越地方」  
 ※所要時間はH22年度道路交通センサスを用いて算出  
 事業中区間は設計速度を用いて算出

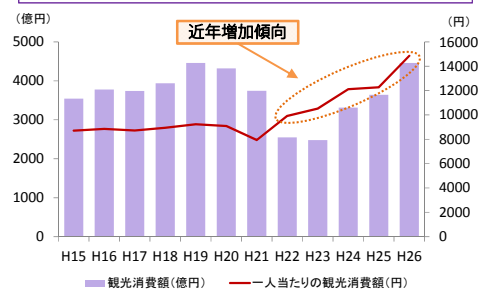
### 課題3 「国際観光都市」に向けた滞在型観光地づくり

本県は、富士山などの自然景観や良質な水、豊かな農産物、個性ある歴史や文化など、多くの観光資源に恵まれ、観光客数、観光消費額ともに年々増加しています。一方、本県の人口は、自然減と社会減が同時に進行し、急激な人口減少局面を迎えています。こうした中、本県経済の活性化を図るには、観光等による交流人口の拡大を図り、多岐にわたる経済活動を誘発させることが期待されています。

そのため、観光客の満足度を高め、繰り返し本県を訪れ、かつ県内各地を巡る滞在型観光を可能とするため、観光周遊ネットワークに資する道路やサイクリングコースの整備が必要になります。

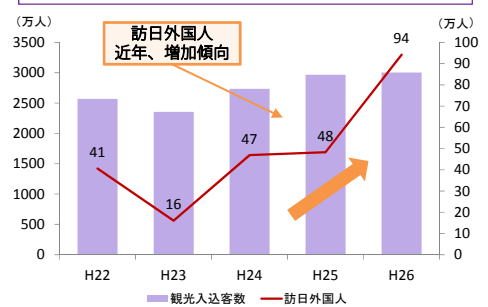
さらに、外国人観光客などの利便性に配慮した、魅力ある国際観光都市づくりを進めながら、山梨の魅力を発信することにより、国内外からの誘客の一層の促進を図る必要があります。

観光消費額の推移



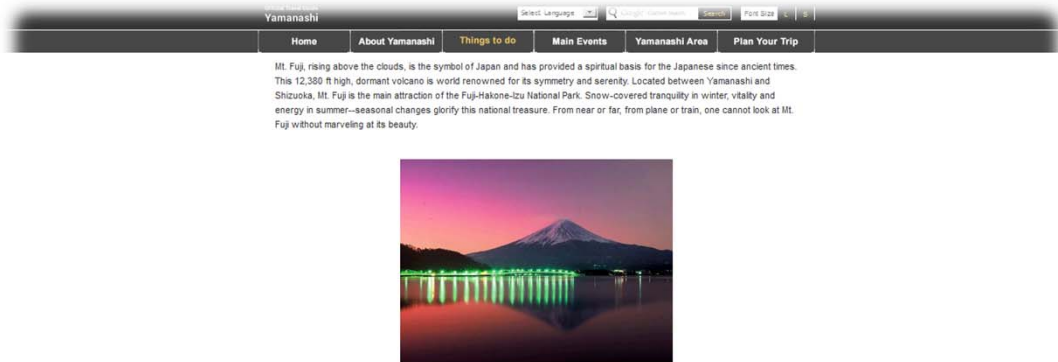
出典：「山梨県観光入込客統計調査報告書」

観光入込客数の推移



出典：「山梨県観光入込客統計調査報告書」

#### 外国人観光客に向けた山梨県を紹介するホームページ



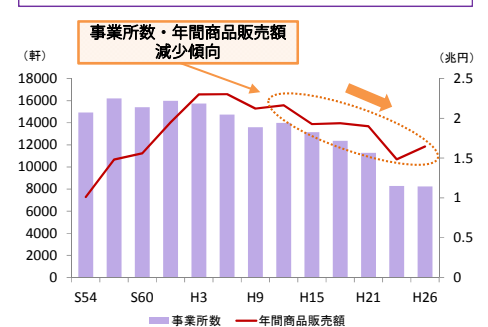
出典：富士の国やまなし観光ネット

### 課題4 市街地の活性化

本県の小売業は、消費社会の成熟化などにより販売額が伸び悩む中、郊外の幹線道路沿いを中心に大規模スーパーや家電量販店等が立地する一方、既成市街地などの商店街には、空き店舗が目立ち、集客力が低下しています。

このため、既成市街地へのアクセスの改善に加え、市街地内の歩行者や自転車の交通環境の改善を図るとともに、市街地の居住環境等の整備を促進し、魅力と賑わいを高めていく必要があります。

事業所数・年間商品販売額の推移



出典：山梨県統計データバンク「商業統計調査」

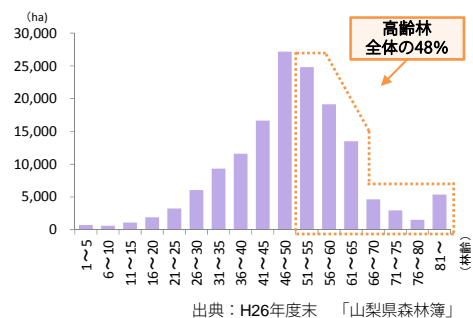
## 課題5 豊かな森林資源の利活用

県土の8割近くを占める森林は、水源の涵養や土砂災害の防止、二酸化炭素吸収による地球温暖化防止など多面的な機能を有しています。また、木材の生産やレクリエーションの場として利用されるなど、県民の生活に密接に関連した貴重な資源であり、将来にわたり良好な状態に保つ必要があります。

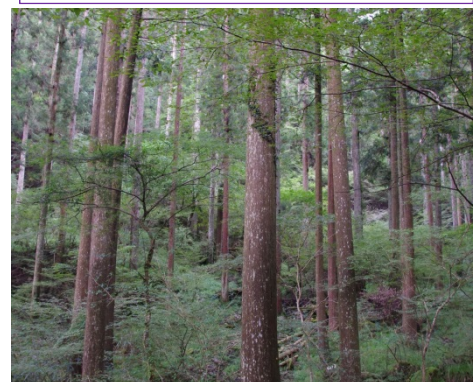
本県森林の44%を占める人工林については、建築用材として利用可能となる概ね50年生以上の高齢林が48%となっており、これらの森林での木材生産をはじめ、森の癒しの効果の活用など多様な利用の促進が期待されています。

一方、木材価格の低迷などにより林業の採算性が悪化していることから、森林施業の集約化に合わせた高性能林業機械の活用等による林業の生産性向上や、間伐等の森林整備に対する支援、林内路網の整備など社会全体で支える健全で豊かな森林づくりの推進が求められています。

### 人工林の林齢別面積



### 適切に管理された人工林



写真提供：森林環境部

## 課題6 個性豊かな景観づくり

本県には、富士山や八ヶ岳、南アルプスなど雄大で美しい山並みや、富士五湖などの素晴らしい自然景観、身延山久遠寺をはじめとした歴史の重みを感じさせる神社仏閣や遺跡、街道に残る宿場の街並み、農村の集落などの歴史的・文化的な景観等、個性豊かな美しい景観が今なお至る所に存在しています。

この個性豊かな景観は、美しい自然やそこに住む県民の日々の生活によりもたらされ、地域に対する愛着や山梨に住むことの誇りを感じさせるものであるため、県民共有の財産として大切に守り、美しい県土づくりに生かしていくことが大切です。

このため、電線類の地中化等による景観への配慮や、景観計画に基づく景観づくりの取り組みを進めていく必要があります。

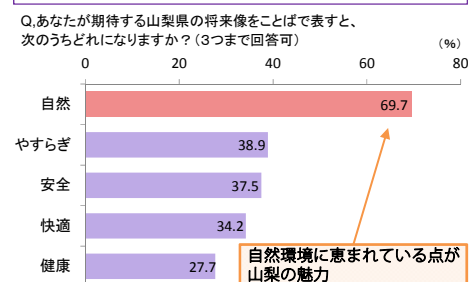
屋外広告物については、県民の生活や事業活動に必要なものであるため、地域の景観と調和させ、まち全体の魅力を高めていく必要があります。

### 山梨県の景観（富士山）



出典：山梨県ホームページ

### 期待する山梨県の将来像



# 健やか・快適環境を創造する「暮らし」分野

## 課題1 安全安心な生活環境づくり

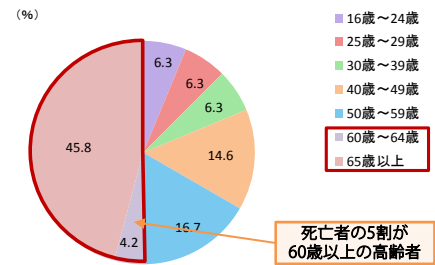
本県では、県民の移動手段として自動車とその中心的な役割を担っています。全国的な傾向として交通事故死者数は減少しているものの、その中で子どもや高齢者が占める割合は増加しています。こうしたことから、事故発生割合の高い箇所など特に対策が必要な道路の整備、子どもや高齢者が多く通行する歩行空間・自転車通行空間の整備により交通事故を抑制し、安全安心な交通環境の実現を図る必要があります。

また、県民が医療機関を受診する手段も自動車に依存している現状です。

特に、救急医療においては、県立中央病院をはじめ、地域の救急病院等の協力により、事故や急病などの場合の受入体制を確保しており、重篤な患者を迅速に搬送することが求められています。

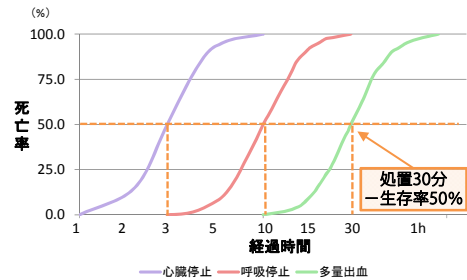
これらのことから、県内各地の医療機関へのアクセス時間を短縮し、速やかな受診や救急搬送を可能にするため、社会資本の整備を進めていく必要があります。

### 交通事故による年代別死亡率



出典：H26 山梨県警察「県内における交通死亡事故発生状況」

### 緊急事態における時間経過と死亡率の関係



出典：M.Cara：1981.「カーラーの曲線」一部改変

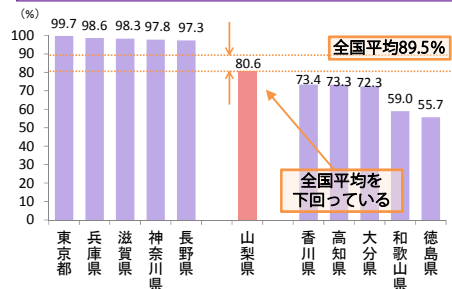
## 課題2 住環境の向上

本県の生活排水処理は着実に進んでいるものの、全国に比べるとその進捗はやや遅れていることから、生活環境の改善や公共用水域の水質保全を一層進めるため、地域条件に合った適切な生活排水処理施設の整備を進める必要があります。

また、高齢化が進行する中で、今後は商業施設や医療・福祉施設、娯楽施設などの生活機能がコンパクトにまとまった、集約型の都市構造への転換も必要になってきており、それと同時に、放置しておく景観の悪化や治安が低下となりかねない空き家対策にも取り組む必要があります。

さらに、全ての人が快適で安全に暮らせるよう、歩道のフラット化や県営住宅のエレベーター設置など、ユニバーサルデザインの考え方を推進し、生活環境の質的向上を図っていく必要があります。

### 生活排水クリーン処理率



出典：H26 国土交通省「都道府県別汚水処理人口普及率」

### 空き家率の高い都道府県

順位	都道府県名	H20	H25
1位	山梨県	16.2%	17.2%
2位	愛媛県	14.5%	16.9%
3位	高知県	15.7%	16.8%
4位	徳島県	14.9%	16.6%
5位	香川県	15.1%	16.6%

出典：H25 総務省「住宅・土地統計調査結果の要約」